
魔法使いになりたいから

椰子カナタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法使いになりたいから

【Nコード】

N5097Z

【作者名】

椰子カナタ

【あらすじ】

アンティークショップ『螺旋の環』。ここに住む高校三年生、風代朔羅は、転校生・鞘上絹枝と出会う。共に『螺旋の環』で暮らす事になった彼女たちの織り成す現代ファンタジー。『IRIS / RAGNAROK』のスピノフ外伝。pixivで連載中の作品を随時転載中です。

プロローグ

身体が熱い。

片目がズキリと痛む。

痛めば痛むほど、体は焼けるように熱を帯びていく。

地下通路を歩く彼女の足取りは酷く重かった。身体を引きずるように、壁に肩を預けながら懸命に歩き続けている。痛みに顔をしかめ、息を切らせながら歩く。

それもその筈だ。彼女の着ている衣服は既にぼろぼろで、それどころか全身が傷だらけであった。幸い出血量は少ないようだが、それでも傷口から流れる血が、彼女の歩いてきた道の上に間を置きながらも落ちていく。

もう体力も限界を迎えていた。それでも歩き続けるのは一体何の為だったろうか。朦朧とする意識の中ではそれすらおぼろげだった。身体が熱い。

片目の痛みは増していく。ズキリと響く鼓動のような痛みは、やがてキリキリと鍼か何かで抉られるような痛みに変わっていく。

ここまで痛むのは彼女にとっても初めての経験だった。痛むのはもはや目だけでは済まない。彼女の中に流れ込んでくる暴力的な何かが彼女の心を痛めつけていく。

その目は、そういう類の代物だった。

「ッ！ー！」

声にならない悲鳴を上げて彼女は蹲るようにその場に倒れ込んでしまった。

誰もいない。昏い地下通路に彼女以外の姿はない。彼女を救助できるような者はどこにもいなかった。

だが彼女にはもう、立ち上がるだけの力は残されていない。痛みの中、彼女の意識は薄れていく。

——私、死ぬの、かな。

だが忽然として、彼女の前に現れた人影があつた。もはや衰弱しきつた彼女がそれに気付いたかどうかは定かではないが、その人影はまるで彼女がこんな状態になるまで登場を控えていたかのようなタイミングで現れた。

彼女を見下ろす人影の表情は窺い知れない。口を開いて呟いたのはたつたの一言だつた。

「死なせはしないさ」

その声は彼女に聞こえたかどうか。

意識を失う間際、最後に思い浮かべたのはたつたひとりの妹の姿だつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5097z/>

魔法使いになりたいから

2011年12月17日10時51分発行